

# 日本足の外科学会 中足部判定基準 (JSSF midfoot scale)

## 疼痛 (40点) <sup>1</sup>

/ 40

	自発痛・運動時痛	日常生活時	スポーツ・重労働時	(参考: 疼痛対策の有無)	
なし	全くなし	なし	なし	(なし)	40
軽度	時々運動時痛あり	なし	あり	(なし)	30
中等度	常に運動時痛あり	全ての動作時にあり	かなりあり	(時々必要)	20
高度	常に自発痛あり	かろうじて歩行できる	(痛みで)できない	(常に必要)	0

## 機能 (45点)

/ 45

### 活動の制限

すべての活動に支障なし	10
日常生活には支障はないが、レクリエーション程度の活動に支障あり	7
日常生活、レクリエーションに支障あり	4
日常生活、レクリエーションに著明な支障あり	0

### 靴 <sup>2</sup>

通常の市販靴が履ける	5
ゆったりとした靴や足底挿板を必要とする	3
整形靴や装具を必要とする	0

### 連続最大歩行可能距離 <sup>3</sup>

600m以上	10
400m以上600m未満	7
100m以上400m未満	4
100m未満	0

### 路面の状況

どの路面でも問題なし	10
凸凹道, 階段, 斜面でやや困難	5
凸凹道, 階段, 斜面はかなり困難, またはできない	0

### 歩容異常

なし, またはあってもわずか	10
あきらかな異常はあるが歩行は可能	5
著明な異常があり, 歩行が困難	0

## アライメント (15点)

/ 15

良	蹠行性足 <sup>4</sup> , 変形なし	15
可 <sup>5</sup>	蹠行性足, 軽度～中等度の変形	8
不可 <sup>5</sup>	非蹠行性足, 高度の変形	0

計 / 100

### 脚注

- 1 あてはまる項目のうち最も低い点数で選ぶ
- 2 どの靴も問題なく履ける場合は「通常の市販靴が履ける」、市販の靴でも可能だが選択が限られ足底挿板等を用いる場合は「ゆったりとした靴や足底挿板を必要とする」、市販の靴は不可能で採型した靴しか履けないあるいは装具を必要とする場合は「整形靴や装具を必要とする」、とする
- 3 連続して休まずに歩行できる最大限の距離
- 4 「蹠行性足」とは、歩行時に足底接地が可能な足のことをいう
- 5 徒手的に矯正が可能な場合は「可」、不可能な場合は「不可」、とする